

妙高大橋見学会に参加して

株式会社共和電業
マーケティング本部
新市場開拓グループ 高橋 成二

マーケティング部門に所属している身の上では、どのようにお客様に「光ファイバセンサ製品」の特徴を伝えればよいのかを常に考えるところであるが、残念ながら知見がなく右往左往していたさなか、まさしく天使が舞い降りたのである。「妙高大橋見学会」である。

大きい瞳の木下とつぶらな瞳の金野をまえに私、高橋は見学目的を復唱した。「インフラ計測の現場経験のない人、少ない人に現場を見てもらう」などなど。「これだ、このチャンスを逃しては成らぬ。逃せばまさしく機会損失。」念仏を唱えるように、当グループからは金野、木下、高橋の3名で参加させていただいた。木下の参加が決まりとなると当部長の気遣いも最高潮。「あれは伝えたか。これはどうなっているか。」次から次へ。その便乗に乗って金野も理不尽なリクエストをする始末。「装備よし！」前日より3人とも戦闘モードに入り、装備を整え勇んでいざ出発。「あずさ2号」のテーマにのり東京駅より「はくたか557号」に乗車した。

妙高大橋見学会後は、長野計器様の戸倉保養所に宿泊させて頂いた。清水建設・岩城様の提案で同部屋の5人は近くの温泉で疲れを癒すことになった。一方、木下と言えば「一人部屋」で1時間近くもゆっくりと湯につかっていたとのことであり、戸倉保養所の夕食と懇親会が見学会にも勝るとも劣らぬ有意義な一日と成った様子。

光ファイバセンサの有効性を改めて認識することができたとともに会員の皆様とのコミュニケーションの機会にも触れることができ、とても貴重な経験を得ることができた見学会であった。

最後に、光ファイバセンシング振興協会事務局の方々、長野計器様には大変お世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。



見学会終了後の集合写真
(長野計器(株)テクニカルセンター前で)